

編集後記

昨春にはテーマパークUSJがオープンしました。関係者の予想を遙かに上回る人気に支えられて、早くも1000万人の入場者を突破し、活況を呈しているようです。しかし、世の中は昨秋のニューヨークのWTCビル激突事件以降、景気は一段と冷え込んできているようです。また政府においては特殊法人改革推進本部において、中長期的な財政支出の縮減・効率化の視点や財政投融资改革との関連なども踏まえた抜本的な見直しが求められています。小泉首相の大本命のもとに3月中には法律により内閣府内に第三者機関（道路関係4公団民営化推進委員会）が設置されて、平成14年以内に新たな方向が示されることになっています。必要な道路は採算性を念頭におきながら建設すべきだと思いますが、昭和30年代に創設された有料道路制度を40年振りに見直して、日本国民が納得できる制度にすべきだと思います。旧国鉄がJR各社として民営化されたと同様に、民営化された4公団が民間企業としての自己責任・自立経営を確立して欲しいと思います。

そのような状況のなかでも、阪神高速道路は京阪神地区において確実に建設工事が進捗しております。従来は高架構造が主体の道路でしたが、昨今では地下構造・トンネル構造が多くなってきました。建設に関わって数々の技術的な課題が提起されています。場合によっては経験豊かな学識経験者に委嘱して委員会を組織して審議することによって最良・最善の対策を精力的に実施してきております。また高架構造においても、進取の精神でもって新技術や新工法の開発にも鋭意取り組んでいるところです。果敢に取り組む技術の成果を「技報」でもって後輩たちに伝承することで、技術者としての責任を果たそうとしているものです。今回投稿された12編の論文のなかから技術者の困難な課題に取り組んでいる真摯な心意気を汲み取って頂きましたら、編集者にとりまして望外の喜びです。

終わりに、技報第20号の発刊に際しまして、特別論文を執筆していただきました京都大学教授土岐憲三先生、編集委員長で巻頭言をお願いしました中島審議役をはじめ、論文執筆者並びに編集委員・幹事の皆様には多大なご苦勞をおかけいたしました。心から厚くお礼申し上げます。

(管理技術センター開発研究部)